



# 東っ子通信

- E: 笑顔の自分を探そう
- A: 安心安全な学校
- S: 信じよう!!自分の可能性
- T: 互いを認め合い共に学び合う仲間たち

“T 互いを認め合い共に学び合う仲間たち”

## 芸術の秋：ひがしっこ美術館

本校の玄関に入って正面の廊下は、小学部の図画工作や中学部の美術の授業で制作した作品が多く展示された「ひがしっこ美術館」です。本校の子どもたちも職員も教室移動も忘れてつい立ち止まり、鑑賞に浸る場所になっています。どの作品も素晴らしく、「うわあ」「すごい」「いいねえ」などと感想を話し、子どもと職員が感動を共有する場になっています。作品は、ホームページ「ひがしっこ美術館」に載せていますので、ぜひ、ご覧いただき感動を共有しましょう。



“E: 笑顔の自分を探そう”

## スポーツの秋：バレーボール

先日中学部の体育の授業でバレーボールをしていました。転校して間もない生徒、スポーツが得意または苦手な生徒など、いろいろな生徒がいますが、失敗しても誰も責めたりしていませんでした。それどころか、全員が安心して参加できる雰囲気がありました。だからこそ、やってみようという気持ちになるんだろうと感じました。このやってみようがあふれる学校を目指しています。



“S: 信じよう!!自分の可能性”



## 文学の秋：文学ストリート

小学部のそれぞれの教室前には子どもたちが書いた詩や日記、物語が掲示されており、小学部教室前の廊下は文学ストリートになっています。詩や日記は、「メロン」「そんなのありかよ」など、子どもたちの日常で起こる出来事や身近な物に対する素直な気持ちが表現されていて、読むとすごく共感できたり、心がほっこりしたりします。また、臨場感あふれる表現で書かれた物語は、読んでいるうちにいつの間にかその世界に引き込まれてしまいます。これまでに、何人も職員が、引き込まれているところを見かけました。

迷子になった歩さんは、泣いていました。すると、そこに三人組の高校生がやってきました。きづいて「迷子なの?」「名前は何?」「どこからきたの?」「どうして泣いているの?」と尋ねました。突然、話しかられておどろいた歩さんは、手に持っていた風船を手放してしまいました。「うわーん。」歩さんの泣き声を聞いたお母さんとお父さんが、駆け寄ってきて、歩さんは両親と再会することが出来ました。しかし、風船は空に飛んでいってしまいました。歩さんの風船はどこにいったのかわかりませんでした。

三人組は「風船はざんねんだったけどお母さんやお父さんに会えてよかったね。」と言って慰めて去っていきました。それから二日後、三人は千葉県にある三人の高校の校庭にいました。すると目の前の木にあの赤い風船引っかけられているのを見ました。一人が、「あ、あの風船は歩ちゃんのだ!」と言いました。「でも、連絡先しらないよ?」「SNSで呼びかけたら。」ナイスアイデアです。

そこで三人は、#赤い風船#東京都#歩ちゃん#探していますと呼びかけました。すると、翌日SNSに、歩さんのあ母さんから投稿がありました。その後、三人と歩ちゃんはもちろん再会できました。SNSがあったからつながったお話です。

「SNS がつなげたふうせん」 作者：小学部6年藤田大輝さん

“A 安心安全な学校”

## 防災の秋：校内安全集会

10月12日(水) 全校集会で、校内での安全な行動について、O×クイズで確認をしました。



※東っ子通信はホームページでもご覧いただけます。

